

群馬県立玉村高等学校 学校評価一覧表 (令和6年度版)

(別紙様式)

評価対象	評価項目	羅針盤 具体的数値項目	方 策	点検・評価		達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
				自己 評価	外部 アンケート			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 学校の特色ある取組に、生徒の80%以上が満足している。	i 全職員共通理解した上で、言葉遣い、挨拶、マナー、身だしなみ等の指導を行い、生徒にはその指導は進路実現に向けて必要不可欠であることをきちんと理解させる。【生指・進路】 ii 生徒に生活の中心を学校に置かせて、授業や行事を通して生徒が達成感を味わえたり、自信を持てたりするよう、集団とともに個人を大切にしたい指導を展開する。【教務】	B	A	B	・身だしなみ等については進路実現との関連性を認識し、生徒も学校の指導を合理的なものとして受け入れていることがアンケート調査から見受けられる。 ・愛校心に関するアンケート調査の数値が1学期に比べ、2学期末は低下傾向にある。目的意識を持った学校生活を過ごすことができるよう、授業や行事の在り方について見直しを進める必要がある。	・生徒の満足度が高い学校であると感じている。いろいろな活動(発表等の行事など)を通じて、生徒が成長していく姿も見ることができた。今後よりよい取り組みを期待する。
		(2) ぐんまチャレンジハイスクールとして本校の取組である「基礎・基本の充実」「コミュニケーション力の育成」「進路選択力の育成」を意識した授業展開を図る。【教務・進路】 ii 教養表現の学習内容にピリオパトルを組み入れ、生徒の表現力を高める指導を行う。	B	A	A	・英語科/数学科で行われている語熟度/少人数授業について、1学期・2学期とも概ね生徒・保護者のアンケート調査の評価は高く、「基礎・基本の充実」については達成できていると思われる。その一方で、コミュニケーション能力の育成や、進路選択力の育成に関する数値については低下傾向を示す数値があり、目的意識を持った学習習慣の定着と、授業改善の推進が課題である。	・ぐんまチャレンジハイスクールを軸に、様々な活動が意味あるものとなっている。また、少人数授業で生徒にあった指導が行われており、あらゆる活動で、先生と生徒が同じ目標を持ち取り組んでいるように感じる。	
		(3) 英語コミュニケーションの少人数制および数学1A・精選数学の習熟度別授業、情報1・情報処理実習・情報表現実習、表現基礎「マナーと表現1」のフィードバック(T,T)の授業形態に、生徒の85%が満足している。	B	A	B	・令和6年度は現行の学習指導要領に基づく教育課程の完成年度にあたる。生徒の実態を踏まえ、令和5・6年度入学生の選択科目と、令和7年度入学生の教育課程の見直しを行い、県教委に届け出た。 ・生徒に関する情報交換は、教育相談の係会議、学年会、職員会議を中心に行われ、授業改善に係る職員研修を2回、外部講師を招いて実施した。	・生徒のために学校としての体制を整えていくことは、今後も続けていきたいと思う。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(4) 授業がわかりやすいと感じている生徒が85%以上である。	i すべての科目において、ICTを活用した効果的な指導や書き・読みに困難を抱える生徒に対する学習支援を実施する。【教務】 ii 「学び直し」の視点を取り入れた生徒にとってわかりやすい授業を展開する。【教務】 iii 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に向けた職員研修を積極的に行う。【教務】	B	B	B	・全職員が教科の特性を踏まえながらICTの活用を意識した授業に取り組んでいる。職員研修では群馬県総合教育センターから研修支援隊を講師とする、生成AIの活用に関する研修を実施し、職員のスキルアップに努めた。 ・日本新聞協会から講師を招き、ワークショップ型の職員研修を実施し、「主体的・対話的で深い学び」に関する理解を深めた。 ・次年度は生徒の教養ニーズを掘り下げるような職員研修を実施したい。	・英語や数学などは少人数という点もあり、生徒の満足度が高い授業が多い点が良いと感じる。わかりやすい授業が続けられており、2回目のアンケートの評価が下がっている部分については、取り組み方等の検討が必要だと考える。
		(5) 図書通信(Library)を定期的に(発行予定12回)に発行し、多くの生徒に図書館を利用してもらう。	B	A	A	・日本新聞協会のNIE実践指定校に指定され、9月から12月まで、朝の読書の時間を活用し、雑書で新聞を読み、発表する活動を取り入れた。生徒アンケートでは1学期に比べ、2学期の満足度の数値は低下傾向が見られた。次年度における実施方法について改善を図りたい。 ・本校のWebページでの図書室関係の動画の配信や、廊下等での掲示を頻繁に更新することで図書室に関する数値は低くなってきている。授業における図書室の活用について、一層の改善を図りたい。	・朝読書の取り組みは良い事である。また、授業との連携のみならず、学校行事(ピリオパトルなど)にも取り入れるなど、積極的読書の意義や興味を持たせる努力をしていることわかる。今後も、生徒たちの読書意欲を高めていきたい。	
	(6) 学力が身に付いたと感じている生徒が、75%以上である。	B	B	B	i 指導と評価の一体化による授業改善を推進し、生徒の基礎学力の向上と定着を図る。【教務】 ii 放課後の補習や課題の指示を積極的に行う。【教務】	・生徒のアンケート調査で学力の定着については1・2学期ともおおむね良好な数値を保っているが、「個に応じた指導」が必要な生徒に対し、必要とされる指導をどこまで提供できるか、職員の共通理解を図りたい。	・多くの生徒が学力が上がっていると感じている点が良い。さらに、身に付いたと感じられなかった約2割の生徒が、取り残されない指導も期待したい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(7) 各種検定や資格取得を推奨し、おべこひの生徒が検定等に挑戦し、50%以上の合格率である。	i 資格取得の意欲について啓発指導を行った上で、日本簿学能力検定・実用英語技能検定・家庭科技術検定・全経ビジ 文書実務検定・全商情報処理検定などの検定試験を校内で実施する。【教務】	B	A	B	・検定を主導している各教科内で啓発指導を行ったうえで、資格取得を奨励している。のべ529名が受検し、いずれの検定も合格率は50%を超えた。	・自分をさらに高めようという姿勢に対し、学校として支援できる取り組みは良いと思う。
		(8) 朝の玄関指導、あいさつ運動を1学期に30日、2学期に40日、3学期に30日以上実施する。	A	A	A	i 玄関指導を通じ、基本的な生活習慣の確立を図る。【生指】 ii 風紀委員、生徒会本部役員も参加しあいさつ運動を実施。学校への帰属意識や社会性を身に付ける。【生指】	・朝の玄関指導、あいさつ運動は計画的に実施され、職員室に入室する際、服装を意識する生徒の割合も1・2学期とも90%以上を計している。基本的な生活習慣を確立することの大切さについて、生徒主体の啓発活動を通じて自覚できるようにしたい。	・アンケートからも適切な指導が行われていることがわかる。生徒が互いを思いやる気持ちで過ごされることを期待する。朝のあいさつ運動など、子どもの様子を見てもらえる取り組みは良いと思う。
		(9) いじめの防止や早期発見に努め、いじめの解消率が100%である。	B	B	B	i 人権やいじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの未然防止、早期発見及び早期対応に努める。【教務・生指】 ii 集会時に人権やいじめに関する話題(特にSNSに関するトラブル等)を取り上げる。また、LHR等で人権や道徳に関する学習活動を実施する。【教務・生指・道徳教育推進】	・いじめに関する対応について、保護者アンケートで1学期に比べて2学期の評価しない割合が若干増えた。引き続き、法令に基づく対応を丁寧に行うとともに、早期発見/早期対応を励行するだけでなく、望ましい人間関係やコミュニケーションの在り方について学年集会などの機会をとらえて指導する必要がある。 ・SNSに関するトラブルについては、11月に情報モラル講習会を実施し、「闇バイト」等の今日の課題と併せて指導した。	・保護者からの否定的な意見が2割程度あり、潜在的ないじめやその前兆事象が起きているのではないかと懸念する。いじめ解消率100%は難しいと思うので、早期対応率を100%にするなどで、生徒に安心感を与えることができればと思う。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	(10) 1日の遅刻率を1.5%以下にする。	i 遅刻時の家庭連絡を徹底する。【学年】 ii 遅刻・欠席グラフの作成を通して、現状の可視化を行い、指導の機会を増やす。【生指・学年】 iii 学年指導や成績並びに生活改善保護者会を開催し、生徒の反省と改善を支援する。【学年・教務・生指】	C	B	C	・1月末までの遅刻率は2.34%で、朝の段階で出席が確認できなかった生徒には電話連絡を保護者に行っている。欠席及び遅刻する生徒は概ね固定化しており、生活改善を登校時にお願いしている。頭ごなしに指導するのではなく、生活リズムを整えることの機能などを説明するなど、引き続き丁寧な指導が必要である。	・欠席・遅刻については、家庭環境もあり、学校のみで解決するのは難しいのでは。家庭との連携を密にすることで、学校と家庭を含めた本人とが一緒に解決を目指す取り組みが重要であると思う。
		(11) 服装を正し、場に応じた適切な声量で発言ができる生徒が90%以上である。	B	B	B	i HRPにおけるマナー指導を実施する。【学年】 ii 全職員で入室時の作法に関する指導を徹底する。【生指・進路】	・学校でのマナーも大切だが、学校以外でも人に買われていると自覚する部分も重要である。生徒が社会人となったときに困らない指導を継続して欲しい。	
		(12) キャリア教育につながるよう、外部機関や外部人材を活用した進路行事を各学年とも4回は実施する。	A	A	A	i 総合・LHRの時間を活用して、生き方に関する指導や職業観の育成につながる講演会や学習会を実施する。【学年・進路】	・キャリア形成を促すための進路行事は計画的に実施できているほか、生徒アンケートでも、1学期・2学期とも90%以上が主体的に参加できている数値が見られた。	・様々な取り組みを行っており、アンケート結果からも進路行事に係る指導が適切に行われていることがうかがえる。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(13) 進路通信を定期的に発行する。(発行予定12回)	i 実情に即した進路情報提供と意識啓発を目的とした「進路通信」を毎月発行する。【進路】	B	B	B	・「進路通信」は12月末日で5号の発行にとどまっているが、今年度から緊急連絡網での添付による配布も併用するようになったので、保護者の目に触れる機会は増加した。 ・引き続き、進路に関する情報提供と意識啓発に臨みたい。	・進路に関する情報発信は適切に行われていると感じるが、「進路通信」を読んでいる保護者が多い。引き続き、生徒・保護者の進路意識を高めることが重要だと思う。
		(14) 学校をあげて進路実現を支援していると感じている生徒が80%以上である。	B	A	A	i 時宜に応じた効果的な進路情報の提供と、生徒の進路課題と指導方針の共有化を図る。【進路】 ii 情報交換会や成績会議において情報交換を行う。【教務・学年】 iii 担任による二者面談・三者面談を充実させる。【学年・進路】 iv 進路意識を高めるための進路行事を実施する。【進路】	・生徒アンケートでの進路に関する参加意欲と、保護者の評価は概ね80%以上と高い数値を示しており、昨年に比べ、3年生の就職内定状況の大幅な改善と、進路未定生の大幅減少がそれを裏付けている。 ・「合格後」の学校生活の在り方など、丁寧な指導が引き続き必要である。	・学校をあげて生徒の進路実現に向けた指導を支援をおこなっていることを感じる。今後も、学校中心の生活を送ることで、教師・生徒が一体となり、全員の進路実現を実現して欲しい。
		(15) 進路行事に積極的に参加したと自己評価している生徒が85%以上である。	A	A	A	i 体系的学習やグループワーク、全体発表などの授業形態を取り入れることにより、進路行事へ参加する意識を高める。【進路・学年】	・キャリア形成を促すための進路行事は計画的に実施できているほか、生徒アンケートでも、1学期・2学期とも90%以上が主体的に参加できている数値が見られた。次年度は、ワークショップ型の進路学習等、さらなる指導方法の多様化を検討したい。	・いろいろな体験を通して、生徒が夢や目標に向け歩んでいるのではないかと、インターンシップ発表会での様子もみて成長を感じられた。
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(16) 学校の教育活動を入り込みに理解してもらうために「学校公開」を年4回実施する。	i 5月のPTA総会時に公開授業を実施する。【教務・渉外】 ii 1・3学期にPTA/PTA/PTAを実施し、玉村町回覧板に掲載するなど、広報活動を行う。【教務】 iii 11月の学校説明会の時に公開授業を実施する。【教務】	B	B	B	・自己指定した学校公開の回数が満たしたものの、受検希望者の確保という側面については改善の余地を残すものとなった。この地域に在籍する中学生にとって、どのようにすれば進路選択の一助となるか、公開の方法とタイミングについて、改善と検証が必要である。	・学校説明会、オープンスクール等の学校公開など、特色ある取り組みを行っている玉村高校を知ってもらい機会としてもらいたい。
		(17) 本校の教育活動を地域・保護者・中学生等に理解してもらうため、Webページの充実を目指し、更新を月に4回行う。	B	B	B	i Webページの更新頻度は月3回程度で、「見たことがない」という保護者の割合は減ったものの、「十分掲載されている」という割合も低下している。画像等も意識しながら生徒の活動の様子外部に伝わるよう、改善を図りたい。	・HPや学校案内のパンフレット等で、適切に情報発信が行われていると思う。HPを見たことがない保護者もあり、更新を見ても工夫も考える必要があるかもしれない。	
		(18) 学年保護者会等に参加している保護者が80%以上である。	B	A	B	i 入学式後に1学年の保護者会を実施する。【1学年】 ii 2学期、修学旅行に関する保護者会を実施する。【2学年】 iii 1学期、進路や卒業準備に関する保護者会を実施する。【3学年】	・保護者会等の出席率はいずれも80%以上である。しかし、日本語を生活言語としない保護者や家庭の都合で出席が難しい保護者も一定数いるため、必要な情報を必要な保護者に届けるために、来校が難しい保護者には個別に対応しており、継続的な取り組みが必要である。	・保護者の方が積極的に保護者会等に参加していることは、家庭との連携を密にしているからだと考える。
11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(20) 生徒の70%以上が、ICTを活用した授業に、満足している。	A	A	A	i 校務委員を中心に、各学期毎に学校通信(よくぶ通信)を発行し、地域への回覧を依頼する。【校務】	・学年主任が持ち回りで担当になり、各学期ごとに「よくぶ通信」を発行している。今年度は全戸配布でなく、緊急連絡メールによる配信とWebページの掲載とした。	・保護者、地域住民に向けて、随時有益な情報発信を今後も継続して欲しい。	
	(21) パーパーレスの職員会議を10回以上実施している。	B	A	A	i ICTを活用した研修や各自の見直し等をおこなうだけでなく、ICTを用いた授業の量および質を上げていく。また、グループワークやスタディーサプリを活用することで授業の効率化を図る。【教務・進路・渉外・保健】 ii 職員用のグループワークスペースを作成し、各自のアカウントを用いて共有フォルダ内の資料を閲覧する形態で職員会議を行い、業務の効率化とペーパーレス化を図る。【教務】	・全職員が何らかの形でICTの活用を意図して授業に取り組んでいるが、職員間の習熟状況や教科の特性によって使用場面が大きく異なっている。次年度は職員研修を通じて、ICTの効果的な活用について、職員の意識とスキルをさらに高めたい(今年度は生成AIを研修で取り上げた)。 ・校務支援システム(kinako)の活用や、Google classroomによるペーパーレス化、年度当初には存在しなかった電子採点システム(白問練乱)の習熟に取り組んだ。情報漏洩について十分留意しながら、業務改善によって生じた時間を生徒と向き合う時間に充てていきたい。	・授業見学の際、デジタル化が進んでいることに驚いた。必要な教科・場面で活用していくことで、成果を上げてほしい。 ・デジタル化の波は遅くはないと感じるが、業務改善につながる方向で、無理のない範囲ですすめてもらえればと考える。	